



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 50

Aug. 2013

今号のトピックス

日本植物分類学会賞の受賞候補者が募集されています。

(9月27日〆切)

→ 4 ページ

維管束植物標本を収蔵している国内のハーバリウムの情報を収集しています。

→ 5 ページ



目次

諸報告

2013 年度第 2 回メール評議員会議事抄録 2

「そうふけっぱら」の保全を求める意見書の提出 2

お知らせ

第 13 回 (2014 年度) 日本植物分類学会賞 (学会賞および奨励賞) の
受賞候補者の募集 4

日中韓国際シンポジウム EAPDC2013 4

「植物分類学研究マニュアル」の刊行計画 5

国内の維管束植物重要コレクション実態調査への協力依頼 5

寄稿

学名のラテン語 (13) 7

書評

「大都会に息づく照葉樹の森 自然教育園の生物多様性と環境」 9

植物研究会・同好会紹介

「公益社団法人 日本植物友の会」 10

会員消息 12



諸報告

2013 年度第 2 回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 志賀 隆

2013 年 6 月 4 日～6 月 11 日に 2013 年度第 2 回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。第 2 回メール評議員会では、2013 年度の評議員会・総会で議題としてあがった、千葉県印西市そうふけっばらの生物多様性保全を求める意見書の内容について議論しました。なお、意見書の内容と提出までの経過は本ニュースレター内で報告されていますので、そちらをご覧ください。

開催日時：2013 年 6 月 4 日～2013 年 6 月 11 日

開催方法：電子メール等の媒体を用いた会議

参加者：評議員全員

議長選出

慣例にしたがい角野康郎氏を議長とすることに反対はなかった。

審議事項

第 1 号議案 印西市「千葉ニュータウン 21 住区開発用地（通称、そうふけっばら）」の生物多様性保全を求める意見書

審議結果

第 1 号議案は、賛成 9 票、反対 0 票、白票 4 票で承認された。

議事録署名人として西田佐知子氏と西田治文氏が選出された。

「そうふけっばら」の保全を求める意見書の提出

会長 角野 康郎

千葉県印西市の通称「そうふけっばら」は、関東地方に奇跡的に残された生物多様性豊かな里地山環境です。土地の所有者である都市再生機構（UR）による造成事業が開始されたことを受け、去る 6 月 13 日に下記の意見書を都市再生機構ならびに関連自治体宛に提出しました。要望書を提出することは 3 月の総会に提案され、メール評議員会の承認を経て文案が固められたものです。

この度の意見書の提出にあたっては、日本生態学会自然保護専門委員会ならびに千葉県生物学会と連携して、少しでもインパクトのあるものにする努力をしました。日本生態学会と千葉県生物学会の要望書の内容との重複を避けるために、植物分類学会は意見書の形を取りましたが、3 団体の要望書・意見書提出はマスコミでも取り上げられました。今も造成工事は続いており、予断を許さない状況ではありますが、絶滅危惧種の保全は植物分類学会の重要な使命であり、今後とも状況の推移を見守りながら、有効な方策を模索したいと考えています。

なお、「そうふけっばら」の生物多様性については下記の日本自然保護協会のサイト等を参照下さい。

<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/shimousa/2013/07/post-10.html>

2013年6月11日

日本植物分類学会
会長 角野 康郎千葉県知事 森田健作 殿
千葉県企業庁長 吉田雅一 殿
独立行政法人都市再生機構 理事長 上西郁夫 殿
印西市長 板倉正直 殿印西市「千葉ニュータウン 21 住区開発用地（通称、そうふけっぱら）」
の生物多様性保全を求める意見書

私たち日本植物分類学会は、植物の分類学とその関連分野の研究者からなる学術団体として、日本の植物相の解明とその保全に力を入れてまいりました。特に環境省レッドリストの作成にあたっては学会として現地調査に協力し、日本の植物の危機的状況を詳細な調査資料によって裏付けてきました。その成果は既刊のレッドデータブックや 2012 年に公表されました環境省第 4 次レッドリストに反映されています。

私たちの調査から、深山幽谷の原生的自然に生育する植物よりも、人の営みと関わりが深い里山のような身近な自然に生育する植物が消滅の危機にさらされているという実態が明らかになってきました。そのような自然の一つが半自然草地であり、今後、重点的に保全すべき環境であるとして各地で取り組みが始まっています。

このような状況の中で、私たちは千葉県印西市「千葉ニュータウン 21 住区開発用地（通称、そうふけっぱら）」にきわめて良好な半自然草地を含む里山環境が残されていることと、その場所がまさに開発の危機にさらされているという情報に接しました。

「そうふけっぱら」の自然の価値については日本自然保護協会の報告などによって指摘されていますので、ここではあえて繰り返しません。絶滅危惧草地植物のシンボルとなっているオキナグサの開花個体が数百にのぼるという事実や、約 50ha の面積に 27 種の環境省レッドリスト掲載種が確認されている情報だけでも、「そうふけっぱら」が全国的視野からみても非常に貴重な場所であると判断できます。

近年、あらたな開発計画では自然との共生が重要な課題となっています。多くの企業が CSR 活動に取り組み、また地方自治体においても生物多様性地域戦略の策定を進めているのは、そのような時代の流れを反映したものです。2010 年に名古屋市で開催されました COP10（第 10 回生物多様性条約締約国会議）では、生物多様性を保全するための愛知ターゲットが定められました。その「目標 12」には、「既知の絶滅危惧種の絶滅及び減少を防止」するというのが謳われ、我が国の新たな『生物多様性国家戦略 2012-2020』ではその目標に向かっての努力を促しているところです。

千葉県は、全国で最初の地域戦略である「生物多様性ちば県戦略」を策定した自治体です。「そうふけっぱら」の豊かな自然環境の保全を目指すことは、まさにこの戦略に沿うものです。「そうふけっぱら」は、造成によって失ってしまえば再生不能な自然です。奇跡的に残されてきた豊かな自然環境を地域資源として活かし、自然と共生する都市計画の策定を考えるとこそ、都市再生機構ならびに地元自治体が目指すべき方向であると考えます。

「そうふけっぱら」の生物多様性の保全は、関東地方の草地環境の保全だけでなく、全国の絶滅危惧種保全の観点からも重大な課題であると私たちは認識しています。「そうふけっぱら」の自然が宅地開発によって永久に失われるか、あるいは保全の取り組みによって守られるかは、日本の自然保護

の歴史に刻まれるべきことになるでしょう。今回は、宅地造成計画を見直し、地域の自然と共生する新たな地域づくりへ舵を切る最後のチャンスであると考え、当学会としての意見を申し述べさせていただくものです。当学会としても可能な限りの協力は惜しみません。宜しくご高配の程お願い致します。

お知らせ

第13回（2014年度）日本植物分類学会賞 （学会賞および奨励賞）の受賞候補者の募集

会長 角野 康郎
学会賞選考委員長 高宮 正之

以下の2つの賞の受賞候補者を募集します。候補者は、学会賞選考規定第2条に基づき、以下に該当する方です。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。これまでの受賞者名等は、学会ホームページをご参照ください。

「日本植物分類学会賞」：植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10年以上継続して本会会員である者とする。

「日本植物分類学会奨励賞」：受賞年の4月1日において満38歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者（学生を含む）に授与する。受賞者の資格は、3年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は、(1)どちらの賞への応募か (2)ご自分の研究全体に関するタイトル (3)略歴（生年月日、学歴、職歴など）(4)調査・業績の概要 (5)業績リスト（論文、著書など）と本学会の大会での発表記録をワード・ファイルあるいはA4用紙に記入して（書式は自由）お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mailでのファイル添付、または郵便でお願いします。

書類送付先：〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1 熊本大学大学院自然科学研究科
高宮正之宛 e-mail: lycopod@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp

応募締め切り日：平成25年9月27日（金）

その他：両賞の受賞者は、平成26年3月の日本植物分類学会大会（熊本）において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

日中韓国際シンポジウム EAPDC2013

会長 角野 康郎

日中韓合同シンポジウムが下記の日程で行われます。まだ詳細な情報については連絡がございません。今後の情報は植物分類学会のホームページで案内しますので、参加を検討されている方はチェックして下さい。

若手の参加には学会からの援助もありますので、奮っての参加を期待します。

East Asian Plant Diversity and Conservation 2013 (EAPDC 2013)

Date: 2013 Nov. 6 (Wed) –7 (Thu), 2013 ; Nov. 8 (Fri) Excursion scheduled

Place: Korea National Arboretum

Topics:

- 1) Phylogeny, taxonomy and biodiversity inventory
- 2) Plant biogeography and phytogeography
- 3) Speciation, breeding system and adaptive evolution
- 4) Plant conservation genetics and strategies in East Asian countries

「植物分類学研究マニュアル」の刊行計画

戸部 博（京都大学）

お知らせがあります。日本植物分類学会の長年の事業計画の1つに「植物分類学研究マニュアル」の刊行があります。しかしなかなか全体の準備が整わないため、準備のできた原稿を優先しつつ、和文誌『分類』に各号5～6編ずつ掲載を始めることにしました。

計画の出発は10年をはるか前に遡ります。当初執筆していただいた原稿の多くがフロッピーディスクに保存されたファイルで、しかも刊行できないでいるうちにどの原稿も多少の修正や訂正が必要になっております。まだ不足している原稿もあります。私が会長をお引き受けしている間に、出版社（朝倉書店）を決める一方、更に何人かの著者の方々に原稿の執筆を依頼し、あるいは古い原稿のアップデートなどを依頼してきました。その間、川窪伸光さん（岐阜大）と東浩司さん（京都大）に手伝っていただいて、手元の原稿を全て編集可能なファイルに変換し、更に、一部の原稿については印刷時のレイアウトの検討なども進めてきました。それでもまだ全ての原稿が整わず、冊子体として刊行できる状態に至っておりません。そこでこの状態から前進させるために上記のようなかたちをとることにしました。計画では、数年後までに数十編の原稿が印刷されますので、改めてそれらを一括した冊子体として刊行する予定です。その時点で、もしあれば必要な修正を加え、より充実した内容のマニュアル本としてお届けできると思います。

8月刊行の和文誌『分類』13巻2号には、「植物の採集と押し葉（腊葉）標本作製」、「標本ラベルと保管、標本室の利用」、「野外植物研究者のための写真撮影」、「植物の分類に有用な統計解析」、「分子系統解析のためのDNA実験」の5編が掲載されます。次号からは、シダやコケの標本作製法、さまざまな形態の観察法などの掲載が予定されております。

国内の維管束植物重要コレクション実態調査への協力依頼

植物データベース専門委員会 藤井 伸二・海老原 淳

本学会も加盟している日本分類学会連合は、今年度から「国内の重要コレクション実態調査」を開始しました。博物館や個人が所蔵している貴重な標本を、災害その他の危機の際に迅速に救済するとともに、生物多様性の情報源としてより一層の活用を促進する狙いがあります。本学会は、維管束植物標本についての情報収集を担当することになっており、植物データベース専門委員会（委員長：伊藤元己）が受け皿になって現在調査を進めております。既に多くの方々・機関からの情報提供をいただいておりますが、下記一覧表で*がついたハーバリウムにつきましては、最新の情報が未だ得られていない状態です。該当する機関に所属されている方、あるいは情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、情報提供へのご協力をお願いいたします。表から漏れているハーバリウム、数千点以上の大規模な個人所蔵コレクション（表には含めていません）についても、情報をお待ちしております。

提供いただきたい情報（維管束植物標本）：(1) 点数、(2) 未整理点数（概数でよい、もしわかれば）、(3) 未整理標本の状態、(4) タイプ標本の概数（もしわかれば）、(5) データベース化された点数、(6) 所蔵標本の特色、(7) 備考

提供先：海老原 ebihara@kahaku.go.jp

提供期限：9月末

都道府県別ハーバリウム一覧

*1 日本植物分類学会ハーバリウム問題検討専門委員会 (1997) [日本植物分類学会会報 12(1):1-24] 掲載, 最新の情報未収集

*2 Index Herbariorum (<http://sciweb.nybg.org/science2/IndexHerbariorum.asp>) 掲載, 最新の情報未収集

*3 上記資料に非掲載であるが, 確実に標本を所蔵している機関

無印は情報収集済み

北海道：北海道大学総合博物館 [SAPS], 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園, 北海道大学農学部森林科学科木材生物学講座 *1, 北海道大学薬学部附属薬用植物園 *1, 帯広百年記念館, 浦幌町立博物館, 本別町歴史民俗資料館, 釧路市立博物館, 苫小牧市博物館, 小樽市総合博物館, 北海道開拓記念館, 旭川市北邦野草園, 旭川市博物館, 札幌市博物館活動センター, 富良野市博物館, 厚沢部町土橋自然休養林, えりも町郷土資料館ほろいずみ, 士別市立博物館 *1, 私立函館博物館本館 *1, 帯広市児童会館 (帯広市青少年科学館) *1, 北網圏北見文化センター *1

青森県：弘前大学農学生命科学部 [HHUF]², 青森県立郷土館 *1, 東北大学植物園八甲田山分園

岩手県：岩手大学教育学部 [UUM]², 岩手大学農学部附属植物園 *1, 岩手県立博物館, 陸前高田市立博物館, 北上市立博物館, えさし郷土文化館, 遠野ふるさと村自然資料館 (管理：遠野市立博物館), 大船渡市立博物館

宮城県：東北大学植物園 [TUS, TUSG]

秋田県：秋田県立博物館 [AKPM]

山形県：山形県立博物館 [YAMA]², 山形大学附属博物館

福島県：福島大学共生システム理工学類生物標本室

茨城県：国立科学博物館 [TNS], 茨城大学 [IBAR]², ミュージアムパーク茨城県自然博物館 [INN]², 森林総合研究所 (つくば) [TF], 農研機構・農村工学研究所

栃木県：栃木県立博物館, 東洋実業株式会社植物研究部 *1, 栃木県林業センター標本室 *1, 那須野が原博物館

群馬県：群馬県立自然史博物館 [GMNH], 群馬県林業試験場 *1

埼玉県：埼玉県立自然史博物館 *1, 埼玉県林業試験場造林保護部 *1

千葉県：千葉県立中央博物館 [CBM], 千葉大学園芸学部 [MTDO], 東邦大学薬学部 [TOHO]

東京都：首都大学東京 牧野標本館 [MAK]², 国立極地研究所 [NIPR]², 帝京大学 [TEU]², 森林総合研究所多摩森林科学園 [TFA]², 津村研究所 [THS]², 東京大学総合研究博物館 [TI]², 東京大学総合研究博物館 (森林植物) [TOFO]², 東京大学総合研究博物館薬学部 *1, ヤッコソウ・ツチトリモチを保護する会本部 *1, 玉川大学農学部農学科 *1, 国立科学博物館附属自然教育園資料室, 昭和薬科大学標本室 *1, 東京都薬用植物園資料室 *1, 日本歯科大学生物学教室 *1, 府中市郷土の森博物館 *1, (旧) 東京都高尾自然科学博物館

神奈川県：神奈川県立生命の星地球博物館 [KPM], 横浜大学 [KAMA]², 横須賀市自然・人文博物館, 横浜国立大学理学部植物標本室 *1, かわさき宙と緑の科学館, 大磯町郷土資料館, 北里大学薬学部附属薬用植物園

新潟県：新潟市立総合教育センター植物資料室, 新潟大学教育学部, 新潟薬科大学薬学部, 長岡市立科学博物館, 上越教育大学, 積雪地域植物研究所

富山県：富山市科学博物館 [TOYA], 富山医科薬科大学和漢薬研究所 *1, 富山大学理学部 *1, 富山県中央植物園 *1

石川県：金沢大学理学部 [KANA], 金沢大学薬学部附属薬用植物園 *1, 小松市立博物館 *1, 石川県白山自然保護センター *1, 石川県林業試験場 *1, 石川県立自然史資料館 *3

福井県：越前町立福井総合植物園 [FUK], 三国町郷土資料館 (みくに龍翔館) *1, 福井市自然博物館 *1

山梨県：環境省生物多様性センター *3

長野県：信州大学理学部 [SHIN]², 信州大学教育学部志賀自然教育施設 *1, 長野県環境保全研究所 [NAC], 諏訪教育博物館 *3, 下伊那教育会 *3, 松本市山と自然博物館 *3, 長野県 (植物研究会) 植物誌編纂委員会 *1, 長野県農事試験場病害虫部 *1, 飯田市美術博物館

岐阜県：岐阜県博物館, 岐阜薬科大学薬学部 *1, 岐阜大学 *3

静岡県：静岡県立大学薬学部 *1, 静岡植物研究会 (静岡大学農学部) *1, 熱川バナナワニ園 *1

愛知県：愛知教育大学 (生物) [AICH]², 名古屋大学博物館 [NUM], 豊橋市自然史博物館, 鳳来寺山自然科学博物館

三重県：三重大学 [TSU]², 尾鷲市立中央公民館, 三重県立上野高等学校, 三重県立熊野古道センター, 三重大学生物資源学部平倉演習林, 三重県立博物館

和歌山県：和歌山県立自然博物館 [WMNH]

滋賀県：滋賀県立琵琶湖博物館，多賀町立博物館^{*3}
 京都府：京都大学大学院理学研究科 [KYO]^{*2}，京都大学農学部（雑草学），京都大学農学部（木材講座学）^{*1}，
 京都大学生存圏研究所材鑑調査室，京都大学農学部附属演習林^{*1}，大本花明山植物園 [OOM]，亀岡市
 文化資料館，京都府林業試験場夜久野分場^{*1}，京都薬科大学薬学部^{*1}
 大阪府：大阪市立自然史博物館 [OSA]，近畿大学東洋医学研究所^{*1}，大阪教育大学教育学部，大阪市立大学理
 学部附属植物園，貝塚市立自然遊学館，岸和田市立きしわだ自然資料館
 兵庫県：兵庫県立人と自然の博物館 [HYO]，神戸学院大学薬学部^{*1}，神戸大学理学研究科，神戸大学発達科学
 部^{*1}
 奈良県：奈良教育大学生物学教室，奈良女子大学理学部^{*1}
 鳥取県：鳥取県立博物館 [TRPM]^{*2}，
 島根県：島根大学生物資源科学部，島根県立三瓶自然館サヒメル
 岡山県：岡山理科大学 [OKAY]，津山科学教育博物館^{*1}，倉敷市立自然史博物館，岡山県自然保護センター，岡山
 大学資源植物科学研究所
 広島県：広島大学大学院理学研究科 [HIRO]^{*2}，広島大学理学部附属植物遺伝子保管実験施設^{*1}，比和町立自然
 科学博物館^{*1}
 山口県：山口大学農学部 [YAM]^{*2}，山口大学理学部^{*1}，山口県立山口博物館^{*1}，山口県立大学家政学部^{*1}
 徳島県：徳島県立博物館 [TKPM]，徳島文理大学薬学部^{*1}
 愛媛県：愛媛県農業試験場^{*1}，西条市立郷土博物館^{*1}，愛媛県総合科学博物館
 高知県：高知県立牧野植物園 [MBK]，高知学園短期大学^{*1}
 福岡県：九州大学総合研究博物館 [FU]，北九州市立いのちのたび博物館，福岡市動植物園^{*1}
 佐賀県：佐賀県立宇宙科学館
 長崎県：なし
 熊本県：熊本大学理学部 [KUMA]^{*2}，熊本市立熊本博物館，熊本大学薬学部附属薬用植物園^{*1}
 大分県：大分県植物研究会 / 大分県教育研究センター^{*1}
 宮崎県：宮崎県総合博物館^{*1}，鹿児島大学博物館 [KAG]，鹿児島県立博物館^{*1}
 沖縄県：琉球大学理学部 [RYU]^{*2}，琉球大学教育学部 [URO]^{*2}，沖縄県立博物館^{*3}

寄稿

学名のラテン語 (13)

永益 英敏 (京都大学総合博物館)

種と種内分類群の学名の形容語—形容詞の比較級

英語の学習で big-bigger-biggest のような形容詞の原級・比較級・最上級を学ぶが、ラテン語の形容詞にも比較級・最上級があり、学名の形容語として用いることができる。

比較級はもとの形容詞（原級）から規則的につくられる。第一第二変化形容詞では、その形容詞の男性・単数・属格形の語尾 -i を除いて -ior（男性および女性の場合）または -ius（中性）を加えた形になる。また、第三変化形容詞では、その形容詞の男性・単数・属格の語尾 -is を除いて同じく -ior（男性および女性）、-ius（中性）に置き換えた形になる。すなわち形容詞の語幹に -ior（男性または女性）、-ius（中性）を加えたもの、ということである。第一第二変化形容詞では原級の単数・主格の女性形または中性形から -a, -um を除いて -ior, -ius をつけても同じになるが、第三変化形容詞では辞書でその男性・単数・属格の形を確認することが必要である。第三変化形容詞では辞書の見出し語（男性・単数・主格）の後ろにその男性・単数・属格の形が記載されていることはすでに述べた（永益，2012）。

比較級の単数・中性形が -ius であるために、学名を扱う場合に比較級の中性形語尾を第一第二変化形容詞の男性形語尾 -us と誤解してしまうことがあり、注意が必要である。ヒロハイヌノヒゲの学名 *Eriocaulon robustius* (Maxim.) Makino は、*E. alpestre* β . *robustius* Maxim. (1892) を Makino (1926) が種のランクにあげたものだが、属名 *Eriocaulon* が中性名詞であり、この形容詞 *robustius* は「がっしりとした」を意味する *robustus*, a, um の比較級・単数・中性である。しかし、このとき Makino (1926) は誤って *E. robustium* と、あ

たかも *robustius*, *a*, *um* という形容詞であるかのように扱っている。

かなり規則的な言語であるラテン語だが、言語の常としてこの比較級にも不規則な形のものがある。使用頻度の高い語彙として不規則なものに、*bonus* よい (比較級 *melior* [*m*, *f*], *melius* [*n*]), *malus* 悪い (同 *pejor*, *pejus*), *magnus* 大きい (同 *major*, *majus*), *parvis* 小さい (同 *minor*, *minus*) がある。*major*, *majus*/*minor*, *minus* は学名の形容詞としてよく使用される。中性形が *melior*, *-ius* を除いて *-ius* とならないことに注意してほしい。

位置を示す形容詞には、直接対応する原級を持たず、前置詞や副詞の語幹からつくられる比較級がある。*anterior* より前の (*ante* 前に), *citerior* こちら側の (*citra* こちら側に), *deterior* より劣った (*de* から), *exterior* より外側の (*ex*, *extra* 外に), *inferior* より下の (*infra* 下に), *interior* より内側の (*in*, *intra* 中に), *prior* より前の (*prae*, *pro* 前に), *posterior* より後の (*post* 後ろに), *superior* より上の (*super*, *supra* 上に), *ulterior* より彼方の (*ultra* 超えて)。いずれも男性・女性形を示し、中性形は *-ior* を *-ius* に変えたものになる。括弧の中は対応する前置詞または副詞である。

その他、語幹の異なる形容詞からつくられ、よく使用されるものにつぎのような比較級がある。*recentior* (*novus* 新しい), *sanctior* (*sacer* 神聖な), *vetustior* (*vetus* 古い), *senior* (*senex* 老いた), *junior* (*juvenis* 若い)。

原級の男性・単数・主格が *-eus*, *-ius*, *-uus* で終わる形容詞の比較級は、おそらく発音しにくいからであろうが、*-ior* のような語尾を付けずに、副詞の比較級 *magis* (形容詞 *magnus* に由来する副詞で英語の *more* にあたる) を前に付けて *magis dubius* (「より疑わしい」。英語の *more dubious* と形式的にも一致) のようにする。IPNI (<http://www.ipni.org/>) で検索する限り、残念ながらこのような形容詞の例は植物の学名には見当たらないようである。

「多量の、たくさんの」を意味する *multus*, *a*, *um* の比較級は複雑で、単数形は中性形しかなく *plus*, 複数形では男性・女性で *plures*, 中性で *plura* となる。単数形で用いられる *multus*, *plus* は量を表す場合である。学名の形容詞では複合語として *multi-* や *pluri-* の形で現れることが多い。原級よりも比較級の方がより程度が高いので、*multi-* よりも *pluri-* の方がより多いということになる。京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞で有名になった iPS 細胞 (*induced Pluripotent Stem cell*) にも *pluri-* という成分が使われているが、*totipotent* (*totus* すべての) > *pluripotent* > *multipotent* > *unipotent* (*unus* 一つの) の順により多くの種類の細胞に分化する能力が高いのだそうである。

	原級の男性・単数・属格	比較級
第一第二変化形容詞		
longus (-us, -a, -um 型)	<i>longi</i>	<i>longior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>longius</i> (<i>n</i>)
niger (-er, -ra, -rum 型)	<i>nigri</i>	<i>nigrior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>nigrius</i> (<i>n</i>)
stronifer (-er, -era, -erum 型)	<i>stroniferi</i>	<i>stroniferior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>stroniferius</i> (<i>n</i>)
第三変化形容詞		
brevis (-is, -e 型)	<i>brevis</i>	<i>brevior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>brevius</i> (<i>n</i>)
acer (-er, -ris, -re 型)	<i>acris</i>	<i>acrior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>acrius</i> (<i>n</i>)
celer (-er, -eris, -ere 型)	<i>celeris</i>	<i>celerior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>celerius</i> (<i>n</i>)
fallax	<i>fallacis</i>	<i>fallacior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>fallacius</i> (<i>n</i>)
動詞の現在分詞 (第三変化形容詞型)		
repens	<i>repentis</i>	<i>repentior</i> (<i>m</i> , <i>f</i>), <i>repentius</i> (<i>n</i>)

- Makino, T. 1926. A contribution to the knowledge of the Flora of Japan. J. Jap. Bot. 3(7): 25–28.
 永益英敏. 2012. 学名のラテン語(11) 種と種内分類群の形容語—形容詞 2. 日本植物分類学会ニュースレター 46: 6–7.

書評

大都会に息づく照葉樹の森 自然教育園の生物多様性と環境 (国立科学博物館叢書 14)

濱尾 章二・松浦 啓一／編 東海大学出版会／発行 ISBN:978-4-486-01974-9
 定価：2,800 円（税抜き） 159 ページ

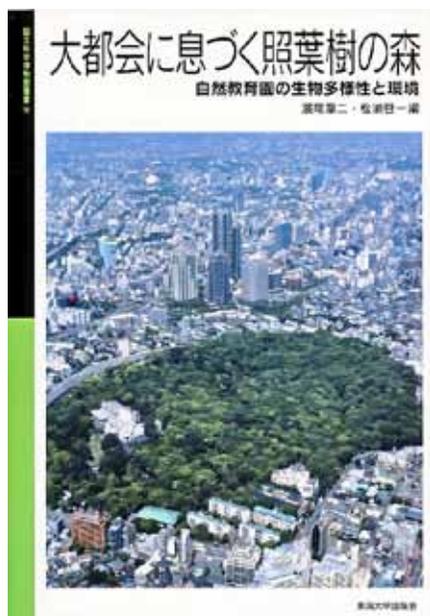
関東の地理に疎いので、地図をながめてみた。「ほう、こんなところに緑色の部分がある」と、思ったあたりが自然教育園だった。冒頭、自然教育園の四季の写真から始まっている。その写真にはビルが全く写っておらず、人口密集地なのにこんな場所があるのかと驚いてしまった。本書では自然教育園に生活する植物や動物の多様性、かれらが暮らす環境の多様性について多くの研究者が詳細に記している。

第 1 章で自然教育園の森を構成する植物・菌類たちの多様性と生活が紹介されている。自然教育園は明治時代は火薬庫、大正時代から終戦後までは宮内庁の管理下という歴史のため都市部に関わらず多くの植物が現在もくらしている。また、継続観察が開園から行われていて約 60 年間の植物相や園内の樹木種の変遷過程が示されている。

自然教育園はコケ植物相の時間的変遷を観察している国内唯一の場所とのこと。第 2 章および第 3 章では主に地上や土壌中に生息する動物たちの多様な生活が紹介されている。ここでの対象は鳥類や昆虫（鱗翅類やトンボ類など）、土壌動物ならびに陸貝である。自然教育園で観察できる動物の一部が写真が掲載されており、本書を見ることで生き物の観察をバーチャルにしている気分になる。最後の第 4 章では自然教育園の気温や地下水、土壌などの非生物学的環境について紹介されている。園内には沼や湿地があるということだが、これらは地下水によって支えられている。自然教育園周辺で行われる様々な開発による地下水への影響を少なくするよう対処されており、今後も地下水は保全され続けるのだろう。

自然教育園周辺にヒトがいなければ、本書にあるような森林が広がっているのだろうかと思案しつつ、本書を片手に自然教育園を散策してみようと思う。

(瀬尾 明弘, 京都大学大学院理学研究科)



植物研究会・同好会紹介

「公益社団法人 日本植物友の会」

山田 隆彦（日本植物友の会副会長兼事務局長）

概要

日本植物友の会は本年 60 周年を迎えます。ユキツバキの命名者である元東京大学名誉教授本田正次先生と万葉集の植物研究者である松田修先生，元人事院総裁の佐藤達夫先生などによって 1953 年（昭和 28 年）に設立されました。初代会長は本田正次先生です。

設立の趣旨は，研究者とアマチュアとの世界を結び，広く植物知識を普及させ，植物愛を喚起するため，諸種の行事を実施し，文化の発展に寄与しようというものでした。

1957 年（同 31 年）には社団法人（文部省）に認可され，法律の改正に伴い 2013 年（平成 25 年）には公益社団法人（内閣府）として認可されました。

現在，会長は東京大学名誉教授の大場秀章先生で，会員数は 400 名弱です。年間 50 件ほどの行事を開催しております。



沿革

1954 年（昭和 29 年）に文部省，NHK，全日本観光連盟，交通公社の後援で郷土の花を選定しております。また 1958 年（昭和 33 年）には NHK と共催で「月々の花」を決定し，1966 年（昭和 41 年）には『日本植物（草本）方言集』を八坂書房より刊行しました。その後，この方言集は 2001 年に同社より『日本植物方言集成』として木本も追加収録され発行されております。

1960 年（昭和 35 年）に福岡支部（福岡植物友の会），翌年に関西支部，その後，甲信支部，静岡支部などが設立されましたが，現在残っているのは福岡支部（福岡植物友の会）だけです。

1975 年代（昭和 50 年代）は倉田悟先生，今関六也先生，小清水卓二先生，佐竹義輔先生，原寛先生，前川文夫先生などが顧問として指導に携っておられました。

1984 年（昭和 59 年）から 1991 年（平成 3 年）にかけて飯泉優元会長や浅井康宏元会長などによって『江東区の野草』3 巻を発行しております。

また 1999 年（平成 11 年）には『野の花山の花ウォッチング』を山と溪谷社から発行しました。

現在の活動

現在，会費と寄付だけで運営されており，毎月 1 回の講演会，休日の観察会，平日の観察会，年 6 ～ 7 回のバスを利用した遠方の観察会，宿泊観察会など，年約 50 回の行事を実施しております。これらの行事には，どなたでも参加していただけます。

観察会は，西表島，石垣島，小笠原，礼文島など遠くの島々，九州，四国，本州，北海道などの遠隔地，また奥多摩や高尾山など近郊の山や，三浦半島などの海岸，

小石川植物園など各植物園を訪ねたりしております。これらの観察会は、研究者や専門家、友の会会員の講師によって行われております。

本年7月には、北海道の大雪山の姿見平や銀泉台、高原沼へ高山植物を訪ねました。今年は雪が多く、何れも残っている雪渓をわたり目的の花を見ることができました。

それ以外に隔年ごとに海外の植物観察も行っています。ピレネーやスイスアルプス、カリフォルニア、中国の植物を訪ねています。

また、講演は、市ヶ谷にある「ルーテル市ヶ谷」で毎月1回土曜日、「花のサロン」という名で研究者や専門家に講師をお願いしています。テーマは分類、生態、植物文化、海外の植物など多岐に亘っております。

また会報「植物の友」（通常8ページ）を毎月発行しています。講演会の講演内容、観察会の記録、案内、連載記事、コラムなど多彩な内容を掲載しています。

ホームページも開設しており、会の紹介や行事の案内と参加申し込み受付を行っております。その他、観察会で見た植物の写真や会員が撮った身近な植物や珍しい植物などの投稿写真なども掲載し、交流の場としております。

現在、理事13名、監事2名、事務局11名で運営され、全員非常勤のボランティアで携わっております。

この11月9日に、60周年記念パーティをアルカディア市ヶ谷（私学会館）で実施する予定です。それに向けて、「植物の友」の表紙に掲載されたボタニカルアーティスト内城葉子さんの植物画に解説をつけた植物画集を編纂中です。



公益社団法人として

本年4月1日に公益社団法人に再登記いたしました。定款に掲げている事業は、①植物知識の普及 ②植物文学及び植物美術の振興 ③植物観察会及び講演会などの開催 ④植物に関係する研究機関及び諸団体との交流や協力 ⑤機関誌「植物の友」及び研究資料の刊行 ⑥植物分類能力検定の実施（未実施）⑦自然保護などです。

公益法人として、植物好きの裾野を広げることに、これからもさらに邁進してまいりますので、今後ともより一層のご指導をお願いいたします。

Web サイト

日本植物友の会 <http://www.shokubutsutomonokai.or.jp>

年会費 一般6,000円、学生会員4,000円、児童・生徒会員1,000円、賛助会員10,000円、団体会員20,000円（年度途中で入会される方の当該年の会費は月割となります）

入会金 1,000円

事務局 〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生 4-21-14-404

電話 044-953-9791

e-mail: yamadaviol@aol.com



入会申込, 住所変更, 退会届, 会費納入, 購読
申込などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 保坂 健太郎 (会計幹事)

Phone: 029-853-8967, Fax: 029-853-8401

E-mail: khosaka@kahaku.go.jp

会 費 : 一般会員 5,000 円, 学生会員 3,000 円,
団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号 : 00120-9-41247

加入者名 : 日本植物分類学会



* ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。

平成 25 (2013) 年 8 月 26 日印刷

平成 25 (2013) 年 8 月 30 日発行

編集兼 茨城県つくば市天久保 4-1-1
発行人 国立科学博物館 植物研究部
海老原 淳

発行所 新潟市西区五十嵐2の町 8050
新潟大学教育学部
自然情報講座
日本植物分類学会